

## 横浜市福祉サービス第三者評価

### 評価結果総括表 (保育分野)

事業所名	認定こども園やつはしキッズ	
報告書作成日	平成28年12月1日	(結果に要した期間 8ヶ月)
評価機関	株式会社 学研データサービス	

#### 評価方法

自己評価 (実施期間:平成28年 5月 31日～平成28年 10月 4日)	毎日のミーティングの時間に職員間で話し合い、園長、主任を中心に作成
評価調査員による評価 (実施日:平成28年 10月 25日、平成28年 10月 26日)	①第1日目 ガイダンス、施設見学、保育観察、事業者(職員)ヒアリング(理事長、園長、栄養士)、書類確認  ②第2日目 事業者(職員)ヒアリング(理事長、園長)、保育観察
利用者家族アンケート (実施期間:平成28年 8月 24日～平成28年 9月 7日)	送付方法・・・園を通して保護者へ配付 回収方法・・・評価機関宛に保護者より直接郵送
利用者本人調査 (実施日:平成28年 10月 25日、平成28年 10月 26日)	第1日目、第2日目の午前遊び、昼食、午睡の状況などを中心に、観察調査を実施しました。

#### 総評(評価結果についての講評)

施設の特徴、施設のよい点・改善すべき点などの総括

\*施設の理念を踏まえながら、施設全体としての特徴を総合的に示すとともに、特によいと思われる点、または、より質の高いサービスの提供のために、工夫すべき点・改善点などについての総括を以下にご報告いたします。

##### 《施設の概要》

当園は幼保連携型の認定こども園(やつはしキッズ ハッ橋幼稚園)です。運営主体は学校法人ハッ橋学園です。認定こども園としての開所は平成20年4月1日になります。2号、3号認定のやつはしキッズの定員は78名(平成28年10月現在78名が在籍)です。特別保育として、延長保育、一時保育、地域子育て支援センターを実施しています。相鉄線希望ヶ丘駅から徒歩で5分の所に位置し、近隣は住宅地になっています。また、園の近くにはいくつもの公園があります。子どもたちは広い園庭で遊んだり、飼育している生き物と触れ合ったりして、伸び伸びと過ごしています。

《特に優れている点・力を入れている点》

○水泳をはじめ多彩な保育を展開して、子どもの視野を広げています

通常保育のほかに、専門講師による多彩な特別保育を導入しています。3～5歳児は体操教室や、園内にある温水プールで週1回の水泳指導があり、卒園までに25メートルをバタ足で泳げるようになるのが目標です。音楽指導では3、4歳児がリトミック、4歳児が鍵盤ハーモニカ、5歳児は鼓笛隊を編成しています。3歳児の2学期からと4、5歳児を対象に、美術講師による絵画指導が毎月1、2回あります。国際理解教室として0～5歳児は英語によるコミュニケーション作り、さらに5歳児の文字指導などが組まれています。このような多彩な保育を実施して、技術の向上もさることながら、豊かな感性を育てるとともに、子どもたちがいろいろな経験をすることで視野を広げ、小学校へスムーズに移行していくことを園では願っています。

○0歳から12歳までの地域の子どもや保護者のための支援を行っています

地域の子育て支援を、0歳から12歳までの長期間を対象に展開しています。0歳児の「ハローベビー」、1歳児の「よちよちクラブ」、2歳児の「親子ふれあいクラブ」、0、1歳児を対象とした「交流保育」など、それぞれ毎月のように行っています。このほか、園庭開放や子育て相談、子育てセミナーなどを実施しています。

また、短時間保育「チビッコランド」を、2歳児は週に5日、3歳児は週に2日実施しています。これは、3年保育は早すぎる、毎日では子どもの負担が大きいという保護者のために、幼稚園の入園準備として、保育のカリキュラムを作成して実施しています。学童保育は、1年から6年まで総数140名ほど実施しています。さらに「タドラキッズ」という事業所内保育を実施しています。実に広範な地域支援を実践しています。

○プールや体育館、音楽室、広い園庭など子どもたちが伸び伸びと過ごせる環境が整っています

当こども園は幼稚園が母体です。園児数もやつはしキッズ、ハッ橋幼稚園の子どもたちを合わせると400名を超える大所帯です。従って、施設もいろいろな設備を整えて運営しています。園舎は、どの保育室も採光が良く、通風換気にもすぐれ、過ごしやすくなっています。また、保育室のほかに、25メートルの温水プールや数百人規模の広い体育館、音楽室などもあります。園庭にある藤棚の下には何脚ものベンチが設置され、夏場は緑陰になり憩いのスペースになっています。園庭の奥では、かめやうさぎ、くじゃくなど小動物や鳥が飼育されています。広い園庭では子どもたちが伸び伸びと駆け回っています。このように、子どもたちが生き生き、かつ、伸び伸びと園生活が過ごせる環境が整っています。

《今後の取り組みに期待したい点》

●3～5年先を見通した中・長期計画の策定を期待します

やつはしキッズ、ハッ橋幼稚園という認定こども園を運営し、さらには、地域の子育て支援、学童保育、事業所内保育など多面的に実践しています。理事長をはじめ経営層は、全体を円滑に進めていくためにたいへんな苦勞をされていると推察します。このようないろいろな事業を展開していくためには、やはり、3～5年先を見通した中・長期計画を策定し、その計画書のもとに着実に運営していくことが求められます。現在はその計画書がありませんので、策定を期待します。中・長期計画は、園の施設整備・管理や、職員の保育の質の向上のための研修計画、1号、2号認定の保護者の支援、地域の子育て中の親子の支援、学童支援など、いくつかの柱のもとに年度目標を立てて実施されることをお勧めします。あわせて、収支計画も作成されるとなおいでしょう。

●やつはしキッズからハッ橋幼稚園へのスムーズな移行を保護者に理解してもらうことを望みます

0～2歳児のやつはしキッズと、3～5歳児の1号、2号認定の子どもたちが混じったハッ橋幼稚園との、保育の整合性にやや課題があります。2歳児から幼稚園に移行する際的生活環境の変化について、理事長が何度も説明をしていますが、年度当初は特に、保護者に十分理解されていないようです。また、移行に伴って、0～2歳児の職員と3～5歳児の職員が行う種々の情報交換について、不十分ではないかと職員は感じています。

0～2歳児のどちらかという養護を中心とした育ちから、3歳児以降の教育を中心とした生活への移行については、保護者にていねいに説明し、新学期早々は性急にしないで徐々に行っていくなど、保護者に十分説明をして理解を図るとともに、職員どうしも情報交換を密にしていこうと求められます。

《事業者が課題としている点》

障がい児教育について、今後は何らかの形で支援級を併設して専門性の高い職員の配置が必要であると考えており、近々の課題ととらえています。預かり保育について、1号での定員設定がないため、幼稚園教室の午後からの使用が増えて行事の準備等に影響が出ているので、行政にも定員設定をお願いしているところですが、保育士の配置や保育内容の充実に、より一層努めたいと考えています。子どもを産み育てやすい地域作りについて、幼児教育の大切さをもっと発信していく必要性を感じています。そして、幼児教育無償化に向けて少子化対策がなされていることを保護者に伝え、第3子など産み育てやすい環境を整備したいと考えています。

評価領域 I 利用者(子ども本人)の尊重

評価分類 I - 1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成



当園の保育理念は、「元気 勇気 根気の子」とあり、保育方針は、「愛情と信頼を大切に一人一人の子どもたちの成長を見守ります」をはじめ3項目、保育目標は、「自分の意志で何かをやらうとする意欲を持てる子どもにする」をはじめ5項目からなっています。これらは職員全員に配付している「教職・保育士への心構え」に記載され、年度初めの法人の全体会でも読み合わせを行っています。また、全職員に配付している「保育・教育課程」にも巻頭に理念や保育方針、保育目標を記載し、全職員が理解しています。なお、理念や保育方針、保育目標は子どもを尊重した文言になっており、それを具体的な保育内容に反映させています。

ハッ橋幼稚園が数年前に認定こども園としてスタートした時点で、園長が中心になって教育・保育課程を作成しました。その後、やつはしキッズでも年度末に職員会議で教育・保育課程の振り返りを行い、新たに付け加えたり、削除したりしてきました。その教育・保育課程には、理念をはじめ、人権尊重や説明責任など社会的責任などが明記されています。また、園の特色ある保育や子どもたちの安全対策、健康支援、小学校とのかかわりなどや地域とのかかわり、職員の研修計画などが記載されています。そして、入園説明会のおりに園長より保護者に教育・保育課程の内容をやさしくかみ砕いて説明をしています。

教育・保育課程をもとに全年齢の年間指導計画、月間指導計画、週・日案が作成されています。そして、指導計画に沿って指導していますが、子どもの発案や希望などが出された場合はクラス内で検討して、取り入れられるものはなるべく取り入れるようにしています。具体的な例としては、2歳児がゴリラの絵本がとても気に入って、子ども祭りの飾りものにゴリラの絵を使いたいという要望がありました。そこで、ゴリラのちょうちんを作ることになりました。また、1歳児がトトロが大好きなので、運動会では、トトロの人形まで行ってトトロにドングリをあげる競技を導入しました。このように、子どもの成長に合わせて指導計画を臨機応変に変えています。

評価分類 I - 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



幼稚園希望者には入園説明会、親子面接、一日入園などを実施しています。やつはしキッズからの持ち上がりやチビッコランドからの入園、あるいは、一般の子どもの入園などルートがいくつかありますので、説明会も分けて行っています。やつはしキッズの入園に関しては2月に入園説明会を行い、理事長が概要を話すとともに、主任や職員が子どもを観察しています。そして、入園に必要な家庭生活状況表や緊急時の引き取り、アレルギーの有無などの書類を、入園までに書いて提出してもらいます。ハッ橋幼稚園もやつはしキッズも入園時の子どもの情報については職員会議で共有し、今後の保育・教育に生かすようにしています。

入園後は短縮保育を実施しています。保護者の就労状況にもよりますが、基本的には1週間ぐらいは午前中の保育にして、徐々に時間を長くするようにしています。子どもが心理的なよりどころとしているタオルやぬいぐるみなどは持参してもいいようにしています。入園後は一人の職員は2名程度の子どもたちを固定的に保育するようにしています。入園当初は保護者も不安を感じていますので、保護者には安心してもらうように、連絡帳や口頭でより詳しく園内での子どもの様子を伝えるようにしています。なお、この時期は雰囲気違って進級児も何となく落ち着かなくなっています。そのような子どもたちにも職員はできるだけ接するように配慮しています。

毎月、月末に次月の月案を作成していますが、その際にあらかじめクラス内の職員どうして当月の評価反省を行い、それを次月に生かすようにしています。保護者からは毎日の連絡帳や口頭で要望を聞くようにしています。また、園からの方針も連絡帳や口頭で伝えて理解を得るようにしています。保護者からは夏場の日差しが強いときは外遊びに配慮してほしいとか、虫さされに注意してほしい、といった要望が出ています。また逆に、職員から離乳食完了期に入ったというお知らせしたときに、まだ、普通食にしないでほしいという要望もありました。こういったさまざまな保護者の要望はできるだけ指導計画に取り入れるようにしています。

### 評価分類 I - 3 快適な施設環境の確保



当園はハッ橋幼稚園(3~5歳児の1号認定とやつはしキッズの2号認定の子どもたち)、やつはしキッズ(0~2歳児の3号認定の子ども)という幼保連携型の認定こども園です。したがって幼稚園のほうは各年齢ともに複数の保育室があり、保育園のほうは0~2歳児まで各保育室があります。いずれも採光も通風も良く快適な環境です。0~2歳児室は全て床暖房が設置され、温湿度も日々管理されています。さらに、園舎、園庭ともに職員や園バスの職員たちが清掃をしています。園庭は広々として、藤棚の下にベンチがいくつも設置され、園庭の奥にはくじゃくやうさぎ、かめなどが飼われています。このように子どもたちが快適に過ごす環境が整えられています。

0歳児の保育室には温水シャワー付きの沐浴設備があります。子どもたちは夏場は毎日のように利用しています。沐浴設備はフリーの職員や担任が毎日清掃をしています。また、排水溝はゴミもたまってきますので、週に1回清掃を行っています。清掃チェック表も作成されています。温水シャワーは、プールや1階の職員用トイレにも設置され、おもらしなどがあったときに、ほかの子どもたちから見えないように職員用トイレで職員が処置をするようにしています。

0~2歳児の保育室はパーテーションを使用してコーナーを作り、小集団で過ごせるようにしています。コーナーの種類はときによって異なりますが、主に、絵本、ブロック、ままごとなどのコーナーを設定しています。また、低い棚を利用して、そこに絵本やおもちゃを並べ、子どもたちが自分たちの興味あるおもちゃを自ら取り出して遊べるようにしています。保育室の広さに限りがありますので、食事と午睡のスペースが一部重なる場所がありますが、食事後はていねいに掃除をしています。日中子どもたちはそれぞれの保育室で過ごしていますが、外遊びや散歩の際は異年齢で過ごすことがしばしばあります。また、意図的に2歳児と3歳児がいっしょに給食をとることもあります。

### 評価分類 I - 4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



0~2歳児は個別指導計画を立てています。個別計画では個々の子どもの月の指導目標と具体的ななかかわりが記載されています。その計画に沿って毎月実践していますが、月末には、担任どうしが評価、反省を行い、次月につなげるようにしています。その際、目標に届かない子どもがいた場合は性急に事を急がないで、もう少しゆるやかな育ちを支援するようにしています。例えば、着脱や排泄、言葉でのやり取りなどがあります。こういった指導計画は、連絡帳や口頭で保護者に伝えて了解を得ています。なお、保護者からの要望があれば担任どうし話し合い、なるべく保護者の意に沿うようにしています。なお、3~5歳児の配慮を必要とする子どもの指導計画の作成を望みます。

認定こども園ですので、小学校へは「幼稚園幼児指導要録(指導に関する記録)」および「幼稚園指導要録(学籍に関する記録)」を送付しています。また、子どもや家庭の個別状況は「家庭生活調査票」に記載し、食物アレルギーの有無や緊急時の連絡先など必要な情報は決められた書式に記載しています。そして、入園後は「保育経過記録」に、卒園まで定期的に子どもの育ちの推移を記録しています。それらの子どもや家庭に関する情報は、職員会議で話し合い、全員で共有するようにしています。なお年度末には、現在の担任から、進級する子どもを担当する職員に、保育日誌や保育経過記録を基に申し送り事項を伝えています。

## 評価分類Ⅰ-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



園としては、落ち着きのない子どもやほかの子どものかかわりが苦手な子どもなど、配慮を必要とする子どももほかの子どもと同様に受け入れる方針です。そういった子どもたちについては、毎日実施している朝のミーティングで状況を伝え合ったり、各クラスのリーダー会議でも話し合っています。そして、職員会議で全職員が情報を共有するようにしています。また、横浜市の研修で配慮を必要とする子どもの研修があった際は、職員は積極的に受講するようにしています。そして、受講した職員が次の日のミーティングでほかの職員に伝えるとともに、研修報告書に記載し、回覧をしています。

バリアフリーに関しては多機能トイレを設置するなど工夫していますが、階段の段差や2階建てなど完全なバリアフリーには至っていません。障がいのある子どもについては、保護者の同意のうえで元神奈川LD協会に勤務していた職員(現在は指導教室Momoの代表)に相談できる体制を整え、必要に応じて園に来てもらい指導が受けられる体制ができています。また、地域療育センターの巡回指導を年2回受けています。職員が障がいに関する横浜市の研修を受けて、ミーティングでほかの職員に伝えるとともに、研修報告書に記載し回覧しています。なお、障がいのある子どもとほかの子どもがいっしょに仲良く過ごす、統合保育を実施しています。今後は、障がいの特性を考慮した個別計画の作成を期待します。

虐待に関する文書が作成され、全職員に配付されています。その文書には、児童虐待の種類(心理的虐待、身体的虐待、性的虐待、育児放棄の虐待)や虐待が疑われる子どもを発見した場合の通報システム(担任から主任、園長、理事長、旭区の子育て支援課)、さらには、園長の通報義務などが簡明に記載されています。また、園則(運営規程)にも、「虐待の防止のための措置」として、人権擁護、職員の研修実施、旭区のこども家庭支援課および児童相談所への通告などが記載されています。なお、虐待が疑われる家庭には、保護者からより話を聞くようにしたり、園として何ができるかなど家庭支援について職員間で話し合うようにしています。

アレルギー疾患については、全職員が、法人内でDVDを見ながら研修を受けています。また、職員は横浜市の研修も受講しています。園には「保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表」のマニュアルがあり、食物アレルギーやアナフィラキシー症候群の有無、治療、生活上の留意点などが記載されています。さらに、横浜市のこども青少年局作成の「保育所における食物アレルギー対応マニュアル」も常備しています。実際の給食提供の手順は、厨房では最初に調理して色分けしたトレーにのせ、厨房の外にある棚の上段に置き、担任が栄養士に声をかけ、除去食の確認をして子どものところに運びます。そして、ほかの子どもとは少し離れた所で、担任が傍らについて食べるようにしています。

園は、外国籍の子どももほかの子どもと同じように受け入れる姿勢です。また、園内に外国人が職員として勤めていますので、会話においてはその職員の協力が得られます。また、いろいろな生活習慣の違いがあった場合は極力尊重する方針です。コミュニケーションが取りづらい保護者がいた場合は、何度でも繰り返し説明し、理解してもらうようにしています。なお、子どもたちは外国人による英語のレッスンを毎週受けていますので、外国人に対する違和感はありません。

評価分類 I - 6 苦情解決体制



「重要事項説明書」の中に、相談・苦情受付担当者として、やつはしキッズおよびハツ橋幼稚園から2名の職員、相談・苦情解決責任者として理事長、第三者委員として3名が役職入りで記載されています。そのほか、面接や電話、文書などの方法により受け付けていることも知らせています。この重要事項説明書は、入園の際、保護者に説明し、同意書に署名してもらっています。なお、横浜市や旭区の相談窓口も保護者に知らせています。このほか日常的に、連絡帳に書かれた要望や苦情は、そのつど担任が対応するようにしています。要望や苦情の内容によっては上司に相談し、園長や理事長が対応する場合があります。

「苦情処理対応マニュアル」が作成されています。そこには、意見や要望の相談における際の第三者委員の役割という項目で、第三者委員の位置づけや業務などが記載されるとともに、3名の委員の住所と電話番号も載っています。また、意見・要望の受付書(相談希望、相談経過、相談者への確認事項など)が添付されています。現在までに第三者委員を交えて対応するところまでは至っていません。最近の要望として、ベビーカーの置き場所は屋根がついていますが、雨が降ってきたときは一部濡れてしまうので何とかしてほしい、という声が寄せられました。そこで、園としては早速屋根をのばして、濡れないように対応しました。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類Ⅱ-1 保育内容【遊び】



0歳児の部屋は、歩き始めた子どもたちが転んでも危なくないよう、床の上に物を置くことなく整然としています。1歳児、2歳児の部屋は、パーテーションやロッカーでしきられ、活動によって場所を変える工夫をしています。絵本やおもちゃは手の届く位置に置かれ、自由時間のときには好きなおもちゃや絵本で遊べるようになっています。絵本やおもちゃは、職員の間で話し合い、月齢に合わせて入れ替えを行うなど工夫しています。3～5歳児は日中は幼稚園児といっしょに活動をしています。おもちゃは種類ごとに箱に分けられています。

保育日誌の中に子どもの様子と職員の配慮を記載する欄があり、日々の子どもの成長や遊ぶ様子と、職員が気づいたこと、そして次の活動へつなげていく様子が記載されています。お誕生日会や秋祭りは0歳児から5歳児までいっしょに参加しています。広い園庭と屋上園庭があり、毎日の朝礼時に、どのクラスがどの場所を使用するかを話し合い、調整をしています。2歳児になると、ゲームを取り入れた遊びの中に「貸して」「いいよ」「ありがとう」「ごめんね」などの相手を思いやる言葉やルールを取り入れています。自由遊びのときは職員は傍らで見守り、言葉かけをしていました。

2階のベランダでは2歳児がミニトマトを苗から育て、毎日の水やりや育っていく様子を観察し、実がなると収穫して、自分たちで食べるまでの体験ができるよう計画が立てられています。3～5歳児は近隣の畑で、じゃが芋掘りやさつま芋掘りといった体験ができます。園の入口には鳥小屋があり、玄関前には熱帯魚の水槽があり、常に生き物の観察ができる環境にあります。園庭は広く、木々が植えられ、子どもたちが自然豊かな環境で育っている様子を見ることができました。園ではお散歩マップを作成し、季節に合った公園に出かけ、散歩を通じて子どもたちが地域の様子を知る機会を増やしています。

子どもの年齢や発達状況に合わせて自由に表現できるよう、各種の製作や絵、歌、手遊び、リズム遊び、国際理解教室などを行っています。各クラスには子どもたちの作品が飾られています。行事が近づくと保護者からラップの芯などを提供してもらい、子どもたちの工作に活用しています。訪問調査の日、2歳児クラスには、ティッシュペーパーの空き箱を利用して作った、ハロウィンパーティーでお菓子を入れてもらうためのとてもかわいらしいバッグが飾られていました。

表現がうまくできない0歳児や1歳児については常に職員が目配り、かみつきをしやすい子どものそばに必ず職員がつくように配置を考え、かみつく前に防げるようにしています。言葉で伝え合える子どもどうしのトラブルについては、職員は双方の話をよく聞いて、年齢により相手の子どもの思いを伝えたり、あるいは、代弁したり、仲立ちしたりして、互いの気持ちに気づけるように援助しています。職員は保護者が自分の子どもがいつもかみつかれているなどの意識を持たないように配慮しています。また、毎日の保護者との会話の中で、子どもが積極的にほかの子どもたちとかかわろうとしている姿を伝えるように心がけています。

週案に散歩や外遊びの時間を設定しています。夏場には2階のベランダに日よけをつるしてプール遊びを行ったり、首のところまで日よけのある帽子をかぶって外遊びをするなど、紫外線対策を行っています。0歳児から2歳児は英語のリズムに合わせて体を動かす時間を取り入れたり、3歳児以上のクラスでは水泳教室と体操クラスがあり、体操教室の先生を招いて、体操の基本から教えてもらいます。国際理解教室は外国人の先生が英語で会話をしますが、0歳児から参加して英語に触れる機会を作っています。リズム遊びは週1回ピアノの音とリズムに合わせて0歳児から参加しています。ケンパ遊びなども取り入れ、成長と発達に合わせてリズム感と体力をはぐむ工夫をしています。

## 評価分類Ⅱ-1 保育内容【生活】



子どもたちが食に関心をもつように、園では年齢別の「食育年間計画表」を立案しています。年間を3期に分けて子どもの目標とそれに対する職員の配慮を記載し、どのような声かけを行ったらよいかを心がけるようにしています。調理室が1、2歳児のクラスの隣にあり、ガラスでしきられているので、調理風景や調理過程がおいとともに伝わるようになっています。子どもたちはそのにおいを嗅いだり、中で給食を作っている職員の姿を見て、給食を心待ちにしています。乳児については環境に慣れるまで子ども一人一人に職員の担当を決め、授乳や離乳食を食べる際の補助を行い、子どもに安心感を与えるように配慮しています。

園の栄養士は委託先の業者から提出された献立表を基に、園の行事に合わせて献立を工夫しています。誕生日にはランチプレートを使用してお子様ランチ風に盛り付け、いつもの給食と変化をもたせ、子どもたちに給食を楽しんでもらえるような工夫をしています。2歳児クラスからお当番が始まり、食事の前には「いただきます」の声かけをします。職員は子どもたちの食事の進み具合などを見ながらいっしょに食事をしますが、そのつど「いただきます」と声をかけていました。0歳児から2歳児までは主食、汁物、副食と器を分け提供しています。3～5歳児は、幼稚園の子どもが持参する弁当と同じように、弁当箱に入れて給食を出し、みんなが同じように楽しく食べることができるよう工夫しています。

月に一度給食会議を行い、担任から喫食状況を伝え、離乳食への移行や子どもたちの好き嫌いの状況を報告しています。また、全クラスの残食調査も行い、調理方法や味付けを変えることで残食を減らせるように工夫しています。給食会議で取り上げられた内容として、離乳食の提供について、担任から、子どもたちが自分でスプーンを使って皿からすくえるように工夫してほしいとのリクエストがあり、皿の形状を検討して子どもたちが使いやすい皿に変えました。園では、一人でも多くの子どもが、好き嫌いなくいろいろな食材を食べられるようになることに配慮しながら、食材や献立を工夫して提供しています。

毎月、献立表を保護者に配付しています。あわせて食材表も配付し、毎日の栄養摂取量を知らせています。給食便りは毎月発行し、献立作成のポイントや旬の野菜などの情報、子どもたちの喜ぶレシピなどを掲載して、保護者に配付するとともに各クラスに掲示しています。保護者からレシピの希望があれば、すぐに対応しています。また、保護者に向けて食育講座を開き、参加者からの質問などに答えています。離乳食への移行のときは、保護者と担任だけではなく栄養士も参加して、保護者の不安などを取り除くようにしています。

眠れない子どもや眠くない子ども、午睡から目覚めてしまった子どもには、午睡を強要することではなく、静かに過ごせるように配慮しています。また、各保育室を柔軟に活用し、午睡をする子どもだけの保育室を準備し、眠らない年齢の子どもたちとは別に過ごすことで、安心して眠れる場所を用意しています。0、1歳児は乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防のため、5分おきに呼吸をチェックし記録しています。3歳児以上のクラスでは、保護者が午睡を希望しているかどうかチェックする表があり、その表に基づいて対応しています。5歳児クラスでも活動内容によって午睡が必要と担任が判断したときは体を休めるようにしています。

排泄は、子ども一人一人の排泄リズムをとらえ、個人差を尊重しています。4月の時点では生活のリズムをつけることから始め、個々のリズムを大切にしながら、遊びの途中でもトイレに連れて行くように配慮しています。トイレトレーニングは1歳児クラスから始めますが、その際は、保護者にトイレトレーニングを始めることを知らせて、どのようなスケジュールで進めていくか個人差を尊重しながら対応しています。園での排泄の状況は、連絡ノートで日々保護者に知らせています。クラスの職員の中で進捗状況などの情報交換を行い、月に一度のリーダー会議で子どもの様子を伝えています。



## 評価分類Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理【健康管理】



毎年、家庭調査票を提出してもらい、既往歴などの健康の状況、食事、排泄、睡眠などの生活の状況、予防接種の受診状況などを把握し、職員が必要なときに確認できるようにしています。歯磨き指導は2歳児クラスの虫歯予防デーのある6月から行っています。保護者へは、毎日の持ちものの中に歯ブラシを追加してもらうようお願いをしています。職員は子どもたちに歯磨きの大切さを伝えるために紙芝居のようなものを作って、見せて、意識を持たせる工夫をしています。園での子どもの健康状態については、0～2歳児は連絡ノートと口頭で伝え、3～5歳児は口頭で伝えています。

内科健康診断は年2回実施しています。歯科健診は年1回、ぎょう虫検査も年1回行っています。また、身体測定は毎月行っています。それらの結果は個別に記録しています。健康診断や歯科健診の結果については保護者に知らせています。身体測定の結果を記入する用紙を用意し、そこに書いて毎月保護者に伝えています。なお、病院での診察を要する子どもについては、保護者に個々に伝えるようにしています。

感染症に対応するマニュアルがあります。入園時に配付する「入園のてびき」には感染症にかかった場合の登園停止基準日数や対応について記載があり、保護者へは入園説明会や入園式の後の懇談会で伝えています。園で感染症が発生したときは手紙を配付したり、保育室に掲示をして周知しています。旭区役所から感染症の発生状況や感染症に関する情報が届いたときは玄関の掲示板にはり、周知に努めています。職員は年度初めに、感染症が発生した場合に備えて必要な知識を習得するように研修を行っています。

## 評価分類Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理【衛生管理】



感染症予防まん延防止マニュアルの中に、衛生管理に関する項目があり、保育室、食事のとき、調乳時、おむつ交換、トイレ、寝具、園庭、プールの衛生管理について、項目を分けて記載しています。全職員が年度初めに読み合わせの研修を行っています。「おそうじチェックシート」の中に、おもちゃや空気清浄機フィルターについてのチェック欄があります。また、保育室とトイレは別のチェック表を作成して管理しています。現在は感染症のマニュアルの中に衛生管理の項目が含まれているので、衛生管理に関する部分を抽出して独立したマニュアルを作成し、閲覧できるようにするとおおよいでしょう。

## 評価分類Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理【安全管理】



園では保育安全マニュアルを作成し、また、地震については別にマニュアルを作成しています。職員が日常点検シートにより毎日、屋上や園庭、保育室、遊具などについて安全チェックを行っています。毎月、火災や地震、不審者侵入などを想定した避難訓練を行い、年に1回保護者の協力のもと引き取り訓練も実施しています。入園時に配付する手引きには、非常事態が発生した場合の園の対応について記載があり、保護者の理解を得られるように努めています。また、緊急時に保護者に、一斉にメール配信する体制を整えています。園の職員は、旭区の救命救急の講習を順次受け、消防署の指導のもとAED(自動体外式除細動器)の使い方や心肺蘇生などの救命訓練を受けています。

子どものけがについては十分に注意するように職員どうし努めています。当園では、どんな小さなけがでも事故報告書を作成することとなり、日時や場所、内容、状況、処置などを記すほか、保護者へどのように連絡したかも記載し、迅速に保護者に連絡できる体制ができています。けががあった場合は、毎日のミーティングで当該の職員が報告するとともに、再発防止策について検討しています。また、毎月、事故報告の結果をまとめて、月末の会議でどのような事故が何歳のクラスで多かったかを報告し、再発防止策も検討し、再発防止に努めています。

年に一度不審者対応の訓練を実施しています。不審者を確認したときの合言葉も決められており、速やかに対応できる体制を整えています。保育安全マニュアルの中に「防犯対策編」の項目があり、日々の備えや来園者の入り口を限定しています。また、通報する必要がある場合に備えて「事故発生連絡票」に基づいて連絡ができるようにしています。近隣で発生した不審者情報については、旭区から配信があり、保護者へは一斉メールで知らせるようにしています。

## 評価分類Ⅱ-3 人権の尊重



「教職・保育士への心構え」という冊子を作成し、職員全員に配付しています。職員の業務全般にかかわることや望ましい教師像、子どもへの共感性の大切さ、子育ての心、言葉遣い、子どもの受け止めかたなど、子どもの人権を尊重したことがらが細かく記載されています。職員は年度初めの法人全体の研修において、この冊子の読み合わせを行い、理解を図っています。また、毎朝のミーティングや毎月のリーダー会議で子どもの様子を話し合い、子どもの思いに気付くように心がけています。なお、子どもに対する言葉が少しくつくなった職員がいたら、主任や園長が注意するようにしています。

保育室の一部をパーテーションでしきり、一人になりたい子どもがいたときは担当がそこへ誘うようにしています。職員が子どもと一対一で話したいときは、幼稚園の3~5歳児の部屋が複数あり午後は空いているので、そこを使うようにしています。また、音楽室はふだん空いているのでそこも使うようにしています。ハッ橋学園全体(幼稚園、キッズ、ちびっこランド、学童保育、事業所内保育施設、子育て支援センターなど多岐にわたる施設)は、乳児から小学6年生までが利用していますので、いろいろなスペースがあります。子どもが一人になりたいときは職員が留意しながら、空いている時間帯の施設が自由に使えますので、それらを活用しています。

「個人情報管理規程」が作成されています。そこには、総則、個人情報の利用、個人情報の適正管理、個人情報の開示および訂正、利用停止、意義の申し出、個人情報の管理者などの柱で、詳細に記載されています。これらの個人情報については年度初めの園内研修において園長が話をしています。また、重要事項説明書において保護者に説明するとともに、写真掲示の了承も事前確認をすることなどを説明しています。さらに、園則(運営規程)においても、秘密保持(子どもや家族の秘密保持、職員退職後も秘密を守る、連携施設を利用する子どもおよび家族の秘密保持)なども明記しています。なお、個人情報に関する書類は鍵付き書棚に保管しています。

子どもの園内での活動については男女児いっしょにしています。散歩やままごと遊び、ブロック遊びも男女児が自然に交じって行動しています。やつはしキッズの子どもたちは、保護者が就労していますので、母親が働くことは極めて日常的になっており、ことさら、父親は会社に行く、母親は家で家事といった固定的な役割意識を持っていませんし、職員もそのような区分けをした話しかたはしていません。職員の言動で気になることがあった場合は、朝のミーティングや職員会議で話題にし、無意識や先入観がないか、お互いに注意し合うように努めています。

## 評価分類Ⅱ－４ 保護者との交流・連携



保育方針については入園説明会や入園式、入園式後のクラス懇談会、進級式などで複数回説明をし、保護者に理解してもらえるよう努めています。園の基本方針は入園時に配付するしおりに記載しています。今回の第三者評価の利用者調査によると、9割以上の保護者から「知っている」という回答が得られ、園の基本方針が理解されていることがうかがえます。9月に行う在園児対象の進級説明会では、園の重要事項を含め、認定こども園の説明をしています。

子どもの送迎時に子どもの一日の様子を口頭で保護者に伝えています。子どもの園での生活は連絡帳にできるだけ詳しく書くようにしています。0～1歳児は複写式の連絡帳を使用して、家庭での様子と園での様子を毎日記入し、1部を園で保管しています。このような日々の送迎時の口頭でのやり取りや連絡帳でのやり取りが、とても重要と園長は考え、各職員が実践するように話しています。個人面談は毎年夏に期間を決めて行っていますが、それ以外にも保護者から相談があった場合や必要に応じて随時行っています。クラス懇談会は年に3回開催し、保護者からの意見を聞く時間を設けています。

保護者からの相談を受ける際には、保護者のプライバシー保護のため空いている保育室を利用して行っています。当園はハッ橋幼稚園もありますので保育室はいくつもあり、プライバシーを守りながら相談できる環境は十分に確保されています。なお、相談を受けた職員が適切な対応ができるように、保護者対応の研修を行っています。相談を受けた職員が判断に迷うような内容の場合にはその場で即答せずに、検討する時間をもらい、園長の助言を受けて適切な対応ができるように心がけています。相談の内容は面談記録用の書類に記録され、継続的なフォローができるように配慮しています。また、子育てセミナーを開催し、随時相談のできる体制を整えています。

月に一度園便りを発行しています。園便りには、今月の行事予定や誕生日を迎える子どもの名前、園からのお知らせを掲載しています。また、各クラスの活動を詳しく掲載するために、2か月に一度クラス便りを発行しています。なお、活動や行事のときの写真は、0～2歳児クラスでは職員が手作りアルバムを作成し、3月の懇談会のときに手渡しています。5歳児クラスでは卒園のときに入園当初からの写真を選び、卒園アルバムとして渡しています。

ハッ橋学園全体の情報誌に年間行事の予定を掲載し、保護者へ配付しています。情報誌には保育参観に出席した保護者の感想を掲載しています。3歳児以上のクラスでは年間を通して、保護者対象の保育参観だけではなく、祖父母を対象とした祖父母参観や体育教室の参観も行っています。懇談会に出席できなかった場合は、お迎えのときに資料を渡し、担任から口頭でも伝えています。

3歳児クラスからは保護者会があり、園舎の中に保護者会室があります。年に数回保護者会主催の行事があり、保護者に参加してもらうことを、入園説明会で伝えています。保護者会主催の行事は毎年年度初めに予定を渡して、どの行事に参加してもらえるかを年間を通じて事前に検討できるようにしています。保護者会主催の行事には、保護者会から依頼があれば、職員は参加しています。保護者会室が園内にあるので、職員といつでもコミュニケーションのとれる環境にあります。年度末には保護者会の反省会に参加し、一年を振り返り、次年度の行事や活動に反映させています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供



理事長を中心とした町内会との交流では、防災面での協力関係の構築が課題となったため、法人施設を避難拠点としたこと、井戸を掘ってほしいとの要請に応じて災害時に使えるよう井戸を掘ったこと、消防署の要請でプールの水を消火に利用するなどの協力をしています。保育に対する要請に応じて、乳児も預かる認定子ども園へ移行したり、学童クラブの運営を始めたことなどもあります。地域向け子育て支援として育児相談や子育てセミナーを実施して、未就園児の保護者の子育てを支援しています。地域療育センターとともに、配慮を必要とする子どもの課題について検討する機会には、子どもと適切にかかわれるように取り組んでいます。

年度末の職員会議では総括を行い、その中で地域向け子育て支援事業の実施報告と、新たなニーズと取り組みについて理事長が説明しています。また、次年度の担当者も選任しています。横浜市の地域子育て支援事業における私立常設園として、毎年計画的に地域向け子育て支援事業を実施しており、現在はハローベビー(0歳児)、よちよちクラブ(1歳児)、親子ふれあい教室(2歳児)のほか、交流保育、園庭開放、子育てセミナーを行っています。中には応募者が定員をはるかに超えて拡充した事業もあります。子育てや保育に関する相談は随時受け付けており、また、地域向け子育て支援事業では参加者の疑問や質問が多く、不安を取り除くように丁寧に答えるようにしています。

評価分類Ⅲ-2 保育所の専門性を活かした相談機能



地域向け子育て支援事業の案内は、入り口にある掲示板やホームページで紹介しています。子育て相談についても広く案内できるように、ホームページに問い合わせ先などを載せるとさらに良いでしょう。育児相談については、随時受け付けているため毎日が相談日になっています。相談には、主に園長が対応し、必要に応じて看護師や栄養士も相談に応じる体制です。最近では、出産後の保護者からの子どもの夜泣きに困っているという相談に応じました。行事予定などは町内会を通じて回覧板などに案内を載せてもらい、地域の方に発信しています。子育てセミナーの案内は在園児の保護者に渡して、口コミで募集しています。

横浜市、旭区、消防署、警察署、児童相談所、病院、町内会、給食業者などの関係機関の連絡先は、事務室で管理しています。各種連絡先は、ときおり職員に確認する機会を設けて理解を深めるようにすると良いでしょう。園全体にかかわる関係機関との連携は、主に理事長が担っており、保育園園長会など保育園関係の関係先は園長が担当しています。関係機関の中でも地域の「幼・保・小教育交流事業」では、定期的に子どもどうしが交流したり、就学に向けた連携事業を行っています。また、教育委員会からの要請で、小学校の現役教師が就学前の子どもの育ちを学ぶ、研修・体験を受け入れています。

## 評価領域Ⅳ 開かれた運営

### 評価分類Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ



法人は長年地域に根差した幼稚園を運営してきたため、地域住民との連携関係が構築されています。例えば、毎年開催するどんどん焼きや祭りは、地域の定例行事になっています。理事長が随時町内会と連携しており、例えばどんどん焼きや祭りの案内は、町内会を通じて地域の方に知らせています。また、法人の施設は近隣の避難場所になっており、食糧などの備蓄もしています。地域の「幼・保・小教育交流事業」に参加しており、就学に向けて学校体験や情報共有などを行っています。園が有する施設や備品を地域の方に利用してもらっています。例えば、餅つき大会の臼や杵、プール開放などがあり、友好的関係にもつながっています。

保育活動の中で、地域の施設を利用しています。鼓笛隊の練習では旭スポーツセンター、園外保育ではこども自然公園、遠足では動物園を利用しています。園庭や体育館が広く、子どもの安全性を確保するために子どもが園外へ出かける機会は多くないですが、散歩に出たときは近隣の方にあいさつをするように指導しています。地域の「幼・保・小教育交流事業」に参加する中で、小学校の給食体験をする機会を設けているほか、法人内の学童クラブの子どもと日常的にかかわっています。商店街の行事では、子どもたちの鼓笛隊が演奏を披露しています。また、子どもや職員の負担が大きく辞退しましたが、交通安全週間に鼓笛隊へ出演依頼がありました。

### 評価分類Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供



園の情報は、ホームページで紹介しています。保育園、幼稚園それぞれの性格を有しているため、14時には帰宅するという幼稚園スタイルやその後は預かり保育に移行するという保育園スタイルをフロー図で紹介するほか、年間行事や行事での子どもの様子などを画像で紹介しています。園情報は横浜市や旭区に提供しており、それぞれの基準に沿った情報が公開されています。園見学ではパンフレットといっしょに、保育の料金表と送迎バス代や給食費について示した文書を渡しています。また、体操服購入や延長保育利用などは、玄関内に設置している自動販売機でチケットを購入するようにしており、購入前に金額を確認することができます。

園見学では、パンフレットなどの資料を渡して、園長が園内を案内しています。入園に関する問い合わせは主に電話で受け付けており、事務員が随時対応しています。入園を検討する保護者には、必ず園見学に来てもらっています。特に一般的な保育を希望する方には、幼稚園から認定こども園へ移行した経緯があり幼稚園の教育を引き継いでいること、そのメリットとデメリットを理解してもらうことを重点的に説明しています。園見学の希望が行事などに重なる場合は別の日をお願いすることもあります。基本的には保護者の都合を優先しています。保護者には日常的な活動の様子を見てもらうために、午前中の見学を勧めています。

### 評価分類Ⅳ－3 実習・ボランティアの受け入れ



ボランティア受け入れのためのマニュアルを設置しています。受け入れる意義として、地域の保育園に対する理解を深めることをはじめとする3つの意義が示されています。事前説明を行うことや持ち物などを示した文書を一週間前までに実習生へ配付すること、保育園の機能と役割や乳幼児の発達を理解してもらうといった目的などが示されています。受け入れにあたっては、事前に文書を配付するほか当日の活動前に園長がオリエンテーションを行い、活動してもらうことの意義や、子どものかかわりかたや配慮、守秘義務などについて説明しています。活動後には感想文を書いてもらって成果を確認して、次回の受け入れに反映しています。

職員向けの実習生受け入れマニュアルを作成して、基本的に学んでほしいこと、「保育園の機能と役割」をはじめとする3項目を示しています。マニュアルに基づいて、受け入れ一週間前までに持ち物や注意事項を示した文書を配付しています。それに加えて活動前のオリエンテーションで、園長がマニュアルに沿って学んでほしいことなどを説明しています。受け入れ担当は園長で、指導は受け入れクラス担任が担っており、日程調整や活動内容を調整しています。実習では、子どもとの接しかたや保育記録の取りかたの指導などもしています。実習生の活動後は毎日反省会を行い、最終日は感想文を書いてもらい、次の受け入れの参考にしています。

## 評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

### 評価分類Ⅴ－1 職員の人材育成



職員体制は保育士、看護師、栄養士で構成されており、保育士については法人内施設の中で人事異動を行っています。理事長は、全ての年齢の子どもの保育ができることが大切と考えて、職員ごとのスキルや相性を勘案して配置しています。また、欠員が生じるときは、法人内で異動させたり新たに採用して過不足のないようにしています。理念や方針を保育に反映できるよう指導しています。例えば2歳児では、教育計画に基づいた集団プロセスを大切にしており、子どもどうしの関係性に配慮した保育をしています。職員評価については、「人事評価シート」を使い、職員ごとの希望を聞くと同時に達成度も確認しています。

職員の研修は、3月に横浜市から送られてくる1年間の研修案内を基に、園長が職員ごとに必要と判断する研修や職員の希望を勘案して計画書にしています。法人主催の内部研修(学園研修)には、非常勤職員も含めた全職員が参加しています。最近では、アレルギー対応や保護者対応などについて研修を実施しました。外部研修は主に横浜市主催の研修に参加しているほか、地域療育センター主催の研修、消防署の救命救急の研修などにも参加しています。研修に参加した職員は、習得内容と感想をまとめて報告書を作成しています。

職員の業務マニュアルである「教諭・保育士への心構え」「業務マニュアル」は、非常勤職員を含めた全職員に配付しています。入社時の新人研修のほか、中途採用では園長が内容を説明し、OJT(職場内研修)でも理解を促しています。常勤職員と非常勤職員の配置バランスは、シフトや経験、スキルを考慮して最適な配置になるようにしているほか、保育士の免許に加えて教職員の免許を有しているかも考慮しています。全職員を対象に研修計画を作成しているほか、内部研修は非常勤職員にも声をかけて参加を促しています。非常勤職員の指導は、配置される部署でのベテラン職員が担当しており、経験やスキルの高い非常勤職員が担当することもあります。

### 評価分類Ⅴ－2 職員の技術の向上



業務に対する職員の評価について、理事長との個別面談と、職員が人事評価シートを作成する機会がありますが、人事評価シートは本人の希望を把握するために用いられているにとどまり、個別面談には利用されていません。今後は、職員が自己の目標を立てて達成度を検証したり、園全体の保育内容を客観的に把握する体制づくりをお勧めします。より良い保育になるように日々工夫を重ねています。例えば1、2歳児クラスのパーティーの位置を変更して子ども目線の動線にしたり、一斉保育では着替えと排泄の場所を分けた例があります。配慮を必要とする子どもの受け入れや対応について、地域療育センターの巡回指導を受けています。

12月ごろに実施される理事長と職員の個別面談では、現在の仕事の状態の報告、次年度に向けて担当するクラスや勤務体制、退職するかどうかなどを聞いています。また、3年間をめぐりに職員のスキルアップの状態を理事長が判断して、担任を入れ替えたり、ほかの職員の保育の様子を見るように指導をしています。保育の指導計画は、月案に「前月の評価及び反省」の項目があり、そこで記録しています。また、クラス内で振り返りも行っていきます。

職員が指導計画以外に自己評価するしくみが構築されていないため、自己評価を報告し合ったり話し合う機会がない状態です。園としての課題は、理事長が、職員との個人面談や園内で活動するときの職員の状況から課題を把握して、必要に応じて改善につなげています。保育に関する計画や実際の保育が教育理念・方針に沿うようにする取り組みはありますので、今後は職員の自己評価を実施して理念や方針に基づいた取り組みを望みます。職員数が非常に多い法人であるため労力を要しますが今後は職員の自己評価体制を構築するとともに、園全体の自己評価体制を構築して結果を公表できるようにされてはかがいでしょう。

### 評価分類V-3 職員のモチベーションの維持



職員の立場に応じて求める能力や役割について、理事長や園長が指導しています。今後は、職員が求められていることを理解できるように、経験や立場に応じて項目を設けて内容を示すなどの工夫があるとなお良いでしょう。子どもの状況に応じた判断は主にクラスリーダーに任されており、判断できないときは園長に指示を仰ぐ体制です。職員から提案があった事例として、配慮を必要とする子どもの対応方法、アレルギー対応薬や消毒薬の使用方法、遊具の点検についてなど、全職員で共有する必要性を職員会議で提案されたため、全職員で検討し共有するようにしました。理事長は職員個別面談で、職員の業務に対する次期の希望を聞いて、計画に反映しています。



## 評価領域VI 経営管理

### 評価分類VI-1 経営における社会的責任



職員の行動規範は「教諭・保育士への心構え」「業務マニュアル」に明記され、非常勤職員を含む全職員へ配付しています。また、前回の第三者評価で職員の理解に改善の余地が見られた守秘義務や個人情報保護について、現在は全職員が理解していることが確認でき、周知の成果が表れています。運営情報は第三者評価受審結果を公表しているほか、独自のホームページ、旭区のホームページでも紹介しています。しかしながら、決算書などの経営状況については学校法人という性格上公表はしない方針ですが、組織の透明性を確保するためにも検討されてはいかがでしょうか。法人主催の内部研修では、不正行為や不適切な事例を取り上げ職員を啓発しています。

ゴミの分別については、横浜市の方法と同様に各クラスで分別しており、子どももプラスチックや紙などを自然に分けています。ペットボトルのキャップや端切れの回収ボックスを設置しており、端切れは製作活動などに活用しています。訪問調査時には、たくさんの牛乳パックが集められていました。緑化推進のために旭区から種を配付されるゴーヤのほかへちまも育てて、緑のカーテンを作って日よけに活用しています。このような環境への取り組みを多々実施しています。横浜市の環境に対する考えかたに共鳴し、職員ともども取り組んでいます。

### 評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



園が目ざすことは「教育理念」「教育方針」として示されており、入職時に職員に資料を配付し、園内にも掲示しています。理事長は年度当初の全体会研修で、理念に基づいて「教育活動の内容」「メンタル面も健康であること」に共感して業務にあたってほしいと伝えています。前回の第三者評価では、理念・方針への職員の理解不足が見られましたが、今回は全職員が理解していることが確認でき、周知への取り組み成果が表れています。職員の入職時には「教育理念」「教育方針」を理解できるよう説明し、入職後も毎年度当初に理事長が説明しています。

保護者は全員保護者会に属しており、代表者と理事長、園長が意見交換する場を、ほぼ毎月設けています。例えば、園で実施する行事は保護者がボランティアとして手伝う機会が多く、詳しい打ち合わせなどを行っています。重要な案件の周知は、各年齢ごとに保護者会を開催して説明しており、子ども・子育て支援新制度への移行に伴って保育料の変更があったときにも、保護者会を通じて理解を得ました。また、保育を多面的に検討するため、保育士が看護師や栄養士と具体的な課題について、検討したり検証する機会を設けています。例えば、アレルギー対応や乳児の健康確認などのほか、産業医を交えてインフルエンザや熱中症対応などについて検討したり、指導を受けています。

職員を指導する役割は、園長および乳児・幼児リーダーが立場に応じて担っています。新年度を迎えるにあたりクラス編成を検討する中で、各職員の経験やスキルのバランスを考慮して、経験の浅い職員を担任が指導できるように配置するほか、必要に応じて乳児・幼児リーダーや園長も指導する体制にしています。なお、主任は外部研修を受けスーパーバイズができるように学習をしています。園長は、毎日各クラスを回って職員の保育の様子を確認し、必要に応じて指導をしています。また、職員の身体的な様子に変化が見られたときには体調を確認して、休憩や休暇を促すなどの配慮をしています。

評価分類VI-3 効率的な運営



園や法人に求められるニーズや環境情報は、理事長が収集しています。例えば、こども園の利用者からは退園後の子どもの受け皿の必要性、交流事業の利用者からは保育園や幼稚園の必要性、一時的に利用できる保育の必要性などが直接伝えられています。また、横浜市の方針である小規模園の運営などもあります。これらの情報は、理事長(幼稚園園長)を中心に理事会で検討して、新たな事業実施や現事業の拡充につなげています。新たな取り組みは職員全体で取り組めるよう指導しており、例えば幼稚園から認定こども園へ運営形態を変更するときには新たな課題も多くありましたが、理事長や保育園園長、リーダー職員を中心に園全体で取り組みました。

理事長は、法人が運営する各事業の利用者から直接寄せられる声や地域の実情を勘案して、今後予想される保育ニーズに応えるために事業拡大の必要性を認識しています。しかしながら、何を目標にいつまでに何をするかといった中・長期計画にはなっていない状況です。今後は、計画を作成してだれが見てもわかりやすいよう計画書にしたり、収支計画と連動性を持たせて内容を客観的に判断できるようにすることをお勧めします。さらに、現在の運営についても年間の事業計画と報告書を作成して、計画と実際の実施状況や資金面との整合性を検証されてはいかがでしょうか。園長やリーダー職員の育成については、理事長が適任者を選定して指導しています。

## 利用者本人調査

### 結果の特徴

#### 調査方法

第1日目、第2日目の午前遊び、昼食、午睡の状況などを中心に、観察調査を実施しました。

#### 【0歳児】

午前中に0歳児室を見学しました。その時間帯は、歩き始めの子どもたちが転んでもおもちゃなどにつまづかないように、整然と片付けられていました。また、天井からは子どもたちや保育士が作成した作品がさりげなく、とても温かみの感じる室内になっています。

午睡明けの午後、おやつ時間帯は0歳児から2歳児まで同じ保育室で過ごします。年齢ごとにテーブルや椅子が用意され、子どもたちはおいしそうに食べていました。おやつは、自分一人でスプーンで食べられる子どもと保育士に介助してもらいながら食べる子どもがいます。保育士は一人一人の子どもたちに「おいしいね」「上手に食べているね」など、優しく言葉かけをしていました。

おやつが終わると保育士が子どもたちのエプロンを順番に外して、一人ずつ手渡していました。渡された子どもは自分が手を拭いたタオルをそのエプロンに挟んでくるくる丸めて保育士の差し出したかごに入れていました。毎日の生活習慣がきちんと身につけている様子を見ることができました。

#### 【1歳児】

訪問当日の午前中は、1歳児と2歳児が同じ保育室を使用していました。1歳児の保育室と2歳児の保育室は子ども用のロッカーやおもちゃを収納する棚でしきられていますが、これらのロッカーや棚は、子どもが自ら取り出せる高さになっています。何でも自分でやりたがる年齢をきちんと意識したつくりになっています。

1歳児がおやつを食べるテーブルでは、子どもたちが座っている席の間に、保育士どうし間隔を置いて座ります。こうすることで子どもたち全体の様子がわかるようにしています。保育士は子どもたちに、「おいしいね」などと声かけをしていました。子どもたちはおやつを食べながら保育士に話しかけたり、子どもたちどうしで話しながら楽しく食べている様子がうかがえました。おやつを食べた後は、0～2歳児までいっしょに、2歳児のお当番の合図で「ごちそうさまでした」のあいさつをしていました。

夕方4時ころになりますと「お帰りの会」が始まり、お帰りの歌をうたいながら、お遊戯をしていました。その後、クラスごとのお話の時間になります。1歳児クラスはお話の後、保育士が「今日は何をやったのかな」と問いかけると、子どもたちは一日の活動を振り返って、元気に声を出して、口々に答えていました。

#### 【2歳児】

訪問初日は園内見学をしているときに、2歳児の保育室では「ちょうちんづくり」をしていました。ちょうちんといっても平面の紙に、絵の具でいろいろな絵の具の吹き流しをしていきます。筆に絵の具をつけ、紙にたらし、それをストローで吹いて絵の具を混ぜる作業をしていました。みんなとても上手に、吹くことができました。

訪問2日目は、絵の具の乾いたちょうちんの紙とは別の紙に、あらかじめ保育士がゴリラの顔を描いておいたものを配ります。ゴリラの顔には目、鼻などのパーツは描かれていません(パーツは保育士が準備しています)。ゴリラの顔を子どもたちが見た瞬間、「わあっ、ゴリラだ、ゴリラだ」と歓声が沸き上がりました。みんなうれしそうな顔です。

子どもたちは以前ゴリラの絵本を保育士に読んでもらい、すっかりゴリラが気に入り、子ども祭りのちょうちんにも1枚は吹き流し、もう1枚はゴリラの顔を作りそれを重ねて貼って飾りたいということでした。ゴリラの目や鼻や口など、上手にのりではっていました。のりを使うこともちゃんと前に経験させています。

初日にいっしょに給食を食べました。みんなおいしそうに食べています。スプーンも上手に使っていました。保育士がときおり話しかけ、和やかな雰囲気です。食物アレルギーのある子どもがいましたが、みんなとちょっと離れ、保育士が傍らについて食べていました。

### 【3歳児】

訪問2日目は、3～5歳児の誕生会を体育館で行っていました。調査者が途中から見学しましたが、3～5歳児は全員、保護者は後ろに数十人います。理事長先生のお話も終わり、ちょうどアメリカ人の職員が英語の歌をジェスチャーたっぷりに行っていました。「幸せなら手をたたこう」の英語バージョンです。子どもたちもおおいにのっていました。歌い終わった後、職員は汗びっしょりで楽屋で着替えをしていました。

その後、保育士たちの人形劇「3びきの子ぶた」です。ぶたやオオカミの縫いぐるみ人形を使い、朗読者がお話をします。子どもたちは何百人もいましたが、じーっと見てシーンとしながら真剣に聞いていました。子ぶたがオオカミにやられるシーンになると、「ああっ」とため息をついていました。朗読する保育士の調子が良く、とてもわかりやすく聞こえます。また、適度な感情が込められていて、子どもたちはすっかり劇の中に入り込んでいました。

この人形劇で誕生会は終了です。それぞれ、保育室に戻り、水分補給やトイレなどし、その後、子ども祭りの製作をして給食です。調査者は3歳児のたんぼぼ3組で給食をいただきました。保育園、幼稚園の子どももみんな弁当の形をした入れ物で食べていました。子どもたちは周囲の子どもと会話をしながら楽しく食べていました。静かなBGMを流していましたが、知っている曲が流れると、思わず数人の子どもたちが口ずさんでいました。

### 【4歳児】

午前中の活動では、紙を使った製作活動をしていました。給食の時間が近づくと片付けと掃除をします。子どもたちは、切った紙くずを探してはゴミ箱に捨てていました。机は衛生面から職員が拭くようにしています。

4人が1つの机を囲んで給食を食べます。持ち回りで当番が決まっています、その日の当番が4人分のお弁当箱を廊下まで取りに行きます。職員から1つずつ受け取って、ひっくり返さないよう両手で慎重に運びます。子どもたちは、自分のかばんを持ってきて箸箱を取り出し机に置いて、かばんを椅子の背に引っ掛けて着席して全員がそろいのを待ちます。当番はみんなの前に並びます。担任のピアノ伴奏で元気に歌をうたって、当番が声をそろえて掛け声をかけて全員で「いただきます」と言って食べ始めます。職員は、子どもが食べ始めたあと片付けなどをしますが、途中「先生たちもいただきます」と伝え、子どもたちも「どうぞ召し上がれ」と答えます。子どもの多くは着席して行儀よく食べることに集中しています。元気におしゃべりする子どももいますが、担任が食べることを促すように声をかけると食べることに集中していました。お弁当箱にはフルーツが入っていますが、最後まで食べないことがルールになっていて、ほかのものを食べ終わったら担任に見てもらいに行き「いいですよ」と確認をもらってから食べますが、全部食べ切れない子どもにも「いいですよ」と声をかけていました。

### 【5歳児】

始業時間になると、担任のピアノに合わせて歌をうたいます。訪問調査の日は午前中、七五三の飴を入れる縦長の袋を作っていました。担任が作成したお手本を黒板の前に立てかけて、できあがり想像しながら紙を折り曲げ、指でのり付けをします。途中、のりが足りなくなると、「のりが足りない」と担任に声をかけて、担任は継ぎ足しをするためにのりの入った容器から、子どもの容器へ注ぎます。

「体操教室から帰ったらのりが乾いているよ、終わった人から着替えて」という担任の声で、のり付けが終わった子どもから体操の時間に向けて、体操服に着替えをします。体操教室のある日は、朝から体操着を着て、スモックをはおっているので着替えも簡単です。着替えが終わった子どもから、縄跳びを持って廊下で待ちます。待っている間には、別の出入り口の前を1歳児が職員に付き添われて横切ることもありますが、違和感はありません。全員そろくと、担任の掛け声で元気に園庭へ行き、園庭では決まった場所に集合します。担任の掛け声で走って集合して体操の先生にあいさつをします。この日は、3回目の縄跳びの練習でした。最後には、男の子と女の子が分かれて一斉に跳んで一番長く飛べる子どもをチャンピオンとして拍手で称えます。競争の途中、人数が減ってくると先につまずいた子どもたちから声援もあがっていました。30分の体操教室が終わると、部屋に戻って給食の時間になります。

# 利用者家族アンケート

## 結果の特徴

(実施期間：平成 28年 8月 24日 ~ 平成 28年 9月 7日)

送付方法・・・園を通して保護者へ配付  
回収方法・・・評価機関宛に保護者より直接郵送

送付対象世帯数： 72 回収数： 48 回収率： 66.7%

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が32人(66.7%)、「満足」が12人(25.0%)で「満足」以上の回答は合計44人(91.7%)でした。

自由意見としては、「先生方がそれぞれの子どもたちに愛情たっぷりに接してくださっているのがよく伝わり、子どもも保育園が大好きです」「先生方はとても一生懸命に子どもにかかわってくれていると伝わってきて、安心して子どもを預けられます」「お迎え時必ず笑顔で対応、会話してくださり安心できます」「やつはしキッズに入園できて本当に嬉しく思います」などといった感謝の声が多く聞かれます。

項目別に見ますと、とても満足度が高い項目として、「問7② あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては」で79.2%、「問4生活③ 基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては」で77.1%、「問4生活① 給食の献立内容については」で75.0%が挙げられます。「問5③ 外部からの不審者侵入を防ぐ対策については」と「問5④ 感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については」はほかの項目に比較するとやや満足度が低い項目です。

## 結果の詳細

### ■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	45.8%	50.0%	2.1%	2.1%	0.0%	0.0%

問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

#### 付問1

保育目標や保育方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	67.4%	30.4%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%

### ■施設のサービス内容について

#### 問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①見学の受け入れについては	70.8%	18.8%	6.3%	0.0%	4.2%	0.0%
その他： 「見学していません」などのコメントがありました。						
②入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	60.4%	33.3%	4.2%	2.1%	0.0%	0.0%
その他：						
③園の目標や方針についての説明には	64.6%	31.3%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%
その他：						
④入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	58.3%	37.5%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%
その他：						
⑤保育園での1日の過ごし方についての説明には	58.3%	33.3%	6.3%	2.1%	0.0%	0.0%
その他：						
⑥費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかを含めて)	56.3%	35.4%	4.2%	2.1%	2.1%	0.0%
その他： 「説明というか、お知らせがあった」というコメントがありました。						

**問3 保育園に関する年間の計画について**

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①年間の保育や行事についての説明には	58.3%	27.1%	8.3%	4.2%	2.1%	0.0%
	その他: 「親が必ず出席しなければいけない行事、そうでない行事教えて欲しい」という意見がありました。					
②年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	43.8%	29.2%	10.4%	10.4%	6.3%	0.0%
	その他: 「要望をした事がないのでわからない」などのコメントがありました。					

**問4 保育園に関する年間の計画について**

遊びについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	66.7%	27.1%	2.1%	0.0%	0.0%	4.2%
	その他:					
②子どもが戸外遊びを十分しているかについては	70.8%	25.0%	0.0%	2.1%	0.0%	2.1%
	その他:					
③園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	66.7%	27.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%
	その他: 「どのようなものを使っているのか不明」というコメントがありました。					
④自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	60.4%	31.3%	4.2%	0.0%	2.1%	2.1%
	その他: 「この活動がこれに当たる!!と言えない」というコメントがありました。					
⑤遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	70.8%	22.9%	2.1%	0.0%	2.1%	2.1%
	その他: 「不明」というコメントがありました。					
⑥遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	60.4%	31.3%	4.2%	0.0%	2.1%	2.1%
	その他: 「夏休み保育ではラジオ体操から始まり良かった」というコメントがありました。					

**生活について**

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①給食の献立内容については	75.0%	16.7%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%
	その他: 「子どもが好きな献立はいいが栄養も考えて欲しい」というコメントがありました。					
②お子さんが給食を楽しんでいるかについては	70.8%	18.8%	6.3%	2.1%	0.0%	2.1%
	その他:					
③基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	77.1%	20.8%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%
	その他:					
④昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	72.9%	22.9%	2.1%	0.0%	0.0%	2.1%
	その他:					
⑤おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	72.9%	16.7%	0.0%	0.0%	8.3%	2.1%
	その他: 「まだなのでよくわかりません」などのコメントがありました。					
⑥お子さんの体調への気配りについては	70.8%	20.8%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%
	その他: 「人数が多く、そこまで気が付かない」というコメントがありました。					
⑦保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	62.5%	20.8%	8.3%	4.2%	2.1%	2.1%
	その他: 「お迎え時に報告はあるが、どうすればいいのかわからないこともある」というコメントがありました。					

**問5 保育園の快適さや安全対策について**

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①施設設備については	60.4%	33.3%	4.2%	0.0%	0.0%	2.1%
	その他:					
②お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	64.6%	18.8%	12.5%	2.1%	0.0%	2.1%
	その他:					
③外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	25.0%	33.3%	20.8%	12.5%	6.3%	2.1%
	その他: 「不明」などのコメントがありました。					
④感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	39.6%	29.2%	18.8%	8.3%	2.1%	2.1%
	その他: 「流行していても情報なし」というコメントがありました。					

**問6 園と保護者との連携・交流について**

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	43.8%	37.5%	14.6%	2.1%	2.1%	0.0%
	その他: 「個人面談は日中の時間帯なので、仕事の調整が必要になる」というコメントがありました。					
②園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	68.8%	25.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
③園の行事の開催日や時間帯への配慮については	52.1%	25.0%	10.4%	12.5%	0.0%	0.0%
	その他:					
④送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	47.9%	35.4%	10.4%	6.3%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑤お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	60.4%	27.1%	4.2%	8.3%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑥保護者からの相談事への対応には	54.2%	29.2%	10.4%	6.3%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑦開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	52.1%	29.2%	12.5%	0.0%	6.3%	0.0%
	その他: 「わからない」などのコメントがありました。					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①あなたのお子さんが大切にされているかについては	68.8%	20.8%	4.2%	2.1%	4.2%	0.0%
	その他: 「園児数が多すぎてよくわからない」などのコメントがありました。					
②あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	79.2%	14.6%	2.1%	0.0%	4.2%	0.0%
	その他: 「楽しんでいる様子」などのコメントがありました。					
③アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	58.3%	18.8%	2.1%	0.0%	16.7%	4.2%
	その他: 「わかりません」などのコメントがありました。					
④話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	72.9%	18.8%	6.3%	2.1%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑤意見や要望への対応については	56.3%	27.1%	8.3%	4.2%	4.2%	0.0%
	その他: 「400人以上いるのでいろいろ聞いていたらキリがない」というコメントがありました。					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	66.7%	25.0%	8.3%	0.0%	0.0%



## 事業者からの意見

保護者からの調査で、日頃の保育・教育に関してのご意見をいただき、日々積み重ねてきていることが着実に子ども達に身につけ、評価していただいていることを再確認できました。これからも昔から変わらない伝統を伝承すること、今の子ども達にとって大切なことは何か全職員で切磋琢磨しながら、日々の保育・教育の積み重ねを大切にしていきたいです。また、率直な意見も出していただき、事業者としての今後の課題も明確になりました。今後の課題については、学園で検討し改善できることから改めていきたいと思えます。保護者アンケートから、在園児保護者に園の方針が周知できていないことも明らかになり、改めて説明会などの機会を設け、園への理解を深めていくことの大切さを感じました。今年度は全入園児に入園説明会を必須にし、園の保育・教育方針、行事等についても細かく説明させていただいておりますが、今後も保護者の皆様にご理解、納得して入園していただけるよう説明会等の機会をきちんと設けていきたいと思えます。同様に、職員アンケートでも、福利厚生等について周知できていない部分があり、学園の終礼等で話をしたり、チラシを回覧したりして全職員に周知できるようにしていき、働きやすい職場作りを目指していけるよう努めていきたいと思えます。